



アイランダー2024

個性あふれる島々の祭典

レポート

それぞれの島が工夫を凝らして魅力をPR。写真は右上から時計回りに香川県塩飽諸島、愛媛県上島町、鹿児島県三島村、長崎県小値賀諸島、愛知県日間賀島、東京都八丈島

文・スズキナオ／写真・箭内博行





1



3

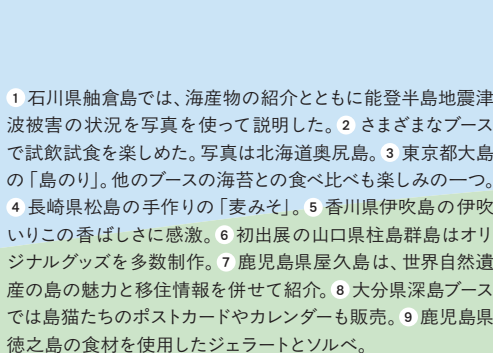


2

北海道から沖縄まで全国約八〇団体、一七〇以上の島の島々が出展し、情報発信や特産品の販売などを行なう交流イベント「アイランドー」(二〇二四年一月一六・一七日)に参加した。この催しは国土交通省と日本離島センターの共催で、今回で三二回を数える。一般的に多くの島の情報は、現地以外では得られる内容に限りがあるが、アイランドーでは、一挙にさまざまな島々に触れることができる。なんと貴重な機会だろうか。

開催初日、会場に着くと、迫力のある太鼓の音が響いていた。開場を告げる八丈島の伝統芸能・八丈太鼓の演奏である。一つの太鼓に二人の奏者が向き合い、それぞれに異なるリズムを叩く。その迫力を間近に感じ、「これだけでも来た価値がある」と聞き入った。

ステージでは、絶え間なくいろいろな島の伝統芸能やトークセッションなどが披露されていて、たびたび足を止めて楽しんだ。



① 石川県舩倉島では、海産物の紹介とともに能登半島地震津波被害の状況を写真を使って説明した。② さまざまなブースで試飲試食を楽しめた。写真は北海道尻尻島。③ 東京都大島の「島のり」。他のブースの海苔との食べ比べも楽しみの一つ。④ 長崎県松島の手作りの「麦みそ」。⑤ 香川県伊吹島の伊吹いりの香ばしさに感激。⑥ 初出展の山口県柱島群島はオリジナルグッズを多数制作。⑦ 鹿児島県屋久島は、世界自然遺産の島の魅力と移住情報を併せて紹介。⑧ 大分県深島ブースでは島猫たちのポストカードやカレンダーも販売。⑨ 鹿児島県徳之島の食材を使用したジェラートとソルベ。



13



10



11



14



12



15

10 11 島ごとに異なる6種のスタンプを集める新企画「島めぐりスタンプラリー〜ウミネコのおめかし〜」。デザインは、うつみりんかさん。12 毎回行列となる新潟県佐渡島の「金塊レブリカつかみ」。13 見ているだけでも盛り上がる山形県飛鳥の「スタッキングサザエ」。14 熊本県御所浦島ブースでは、本物の化石を型取りする体験が人気を博した。15 特産のリシリコンを使った、北海道利尻町の「花折昆布」作り(写真：本誌編集部)。16 南の島の息吹を感じる沖縄県南大東島民謡。17 オンラインで現地の店から黒糖焼酎の飲み方を紹介する奄美群島。18 沖縄県北大東島の燐鉱山探訪。電波が届くギリギリまで遺跡現場からライブ中継。19 会場に一体感呼び込んだ新潟県佐渡島の佐渡民謡。





23



20



24



21



22



28



25



26

20 島グルメコーナーは今回也大盛況。21 島の求人情報コーナー。ハローワークブースもあり相談が可能。22 2日間で約9,200人の方々の来場があった。23 新メニュー「五島美豚の豚丼」(左)と大人気だった「屋久島のトビウオ漬け丼」。24 国土交通省ではスマートアイランドの取り組み事例を紹介。25 各島のパンフレットを集めた資料コーナーに足を止めていく人も多かった。26 長崎県小値賀町公式キャラクター「ちかまるくん」も登場。27 1日目の終了後に開催した「出展者交流会」の様様。28 アイランダー会期中の2日間、サンシャイン水族館では島にまつわる自然や生きものを紹介したパネルが展示された(写真: サンシャイン水族館)。



27

鹿兒島県三島村の留学制度についてうかがった際、担当の方が口にした「子どもたちの存在が島の人たちに元気をくれるんです!」という言葉が胸に残った。「島グルメ」コーナーで食べた屋久島のトビウオ漬け丼のなめらかな食感や、青ヶ島ブースで試飲した青耐の香り高さなども印象深い。これを機に島へ出かけたくなる、五感を楽しめるイベントだった。 ■

人口一人一人の島の半数近くが出展者として会場に来ていた深島のブース。特産品の「深島みそ」を試食させてもらおうと、染み渡るように優しい旨味があった。同じく試食で気に入った松島の「麦みそ」とともに購入し、早速、家で食べ比べた。

カラフルなサザエの殻をどれだけ数多く積み上げられるかを競う、飛島発の「スタッキングサザエ」の競技風景を見たり、新潟県佐渡島ブースでの金塊レプリカつかみ体験も楽しかった。